

シリーズ「子どもの野生復帰大作戦」⑥

子どもの遊びと自然環境①

地域ぐるみで自然体験活動を推進する「子どもの野生復帰大作戦」は、現在「自然体験学校」や「シンボルマーク募集」などの取組みを行っています。

このコーナーでは、自然体験活動などを多方面で実践されている方々からその必要性や意義を伺い、連載で紹介していきます。

NPPO法人
コウノトリ市民研究所代表
(県立豊岡総合高校教諭)

上田 尚志さん

子どもたちが外で遊ぶはなくなってしまった。近くにワクワクするような川があるのに子ども姿がない。なぜそんなことになってしまったのでしょうか。いろいろな原因があるでしょうが、私は3つあげたいと思います。

1つ目は、少子化や地域社会の変化のなかで危険に対する防衛ができなくなったこと、2つ目は、地域に異年齢からなる子ども集団(群れ)ができていくなくなったこと、そして3つ目は、身近な遊ぶための自然環境がなくなってきたことです。

「生涯学習課」

私個人の外遊びの体験を振り返ってみると、近くの池でフナ釣りをした、小川の淀みでナマズを釣った、畑の畝が残る空き地で野球をした、道路でキャッチボールをした、土の地面でビー玉(メカチン)・国取り・釘刺しをした、家の周りで缶けりをした等々いろいろな遊びが季節を変えて展開されていました。

地域ごとにルールが少しずつ違い、さまざまな創意工夫がなされて遊びは子どもたちから子どもたちへと継承されていました。

豊岡盆地は、豊かな自然にあふれているように見えますが、少なくとも私の周りでは今見てきた遊びをすることは

不可能です。池は、とっくに埋め立てられ、小川もすべてコンクリート壁ができ、土の地面はアスファルトで固められ、空き地なんてどこにもありません。駐車場でキャッチボールをして怒られ、少し離れた川に一人でいって怒られたといった具合です。もちろんこうした中でもたくましく遊んでいる子どもたちはいます。しかし、子どもたちにとって遊びにくくなっていることは確かです。

こうした環境を少しでもよくしてやるのが、大人のなすべきことの一つではないでしょうか。コウノトリにとってよい環境は子どもたちにとってもよい環境、ほんとうはコウノトリの野生復帰より我々人間の子どもの野生復帰の方が大切なものかもしれません。

(次回に続く)



▲子どものころ魚とりをした用水路(豊岡市新田地区)

「子どもの野生復帰大作戦推進フォーラム」を開催します

子どもたちにとって野外活動や自然体験は、「心の豊かさ」や「生きる力」を育むために必要不可欠な経験です。

そこで、さまざまな分野で活躍されている実践家を招いてフォーラムを開催し、野外活動や自然体験の楽しさや必要性、子どもたちに与える効果など、今求められている家庭・地域・学校での子育てのあり方について学びます。

- ◇日時 10月22日(日) 開会：午後2時(受付：午後1時30分～)
- ◇場所 豊岡市民プラザ ほっとステージ
- ◇内容 (1) キャッチフレーズ・シンボルマーク授賞式
(2) 基調講演「つくる・遊ぶ・考える—子どもの発達と自然体験」
和光大学非常勤講師、古代技術史・民族音楽研究者 関根 秀樹 さん
(3) パネルディスカッション
- ◇入場料 無料
- ◇その他 参加の申し込みは不要ですが、託児室を利用される方のみ、10月13日(金)までにご連絡《連絡・問合せ》生涯学習課 ください。

ホームページで学校訪問 ~たずねてみよう 我が母校! さがしてみよう 私の学校!~
市内の全公立小・中学校のホームページが閲覧できます!

(市ホームページ→教育・生涯学習→小中学校ホームページリンク→各小中学校一覧)